

成果指標				
成果指標	唐川ふれあいプラザの一日平均利用者数を20人にする。			
指標設定の考え方	佐礼谷ふれあいプラザは介護保険事業所として活用され、主に介護保険収入により運営されているため指定管理料を支払っていない。一方、唐川ふれあいプラザは送迎サービスを含めて委託料等を支払っており、更なる利用促進を求め、その成果を検証するために指標を設定した。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標28年度
目標	17人	18人	19人	20人
実績	16.6人	15.4人	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	両施設とも、昨年度の実績を下回り、目標達成には至らなかったが、介護予防拠点施設として、高齢者の健康増進や交流の場としての役割は大きい。指定管理者と協力しながら更なる利用促進へむけて検討していく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	昨年度の実績を下回ったが、介護予防拠点施設として、それぞれの地域で高齢者の健康増進や交流の場として果たしている役割は大きい。指定管理者と連携を取りながら利用者増を目指して欲しい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題